

# 1年

	<p>①学習指導に関する現状と課題を書きます。</p> <p>②具体的な授業改善策を書きます。</p> <p>③補充・発展的な学習指導の計画を書きます。</p>
国語	<p>①ひらがなの学習を終え、整った文字を書くことができるようになってきたが、まだ不十分な児童もいる。促音、拗音の定着ができていない児童が多い。話す人を見て、大事なことを落とさずに話を聞くことが課題である。</p> <p>②ワークシートやノートに文を書く活動を充実させる。相手を見て、話を聞くことに集中できるよう視覚的資料を合わせて提示するなど工夫する。音読をしたり動作化したりして、読み取ったことを表現できるようにする。</p> <p>③読み聞かせを週2回以上行い、最後まで話を集中して聞き、さらに想像させる。日記指導を通して、文字や言葉を活用し、したことや思ったことを表現する機会を増やす。朝学習や家庭学習で読み・書きの反復学習を行う。</p>
検 証	<p>日記指導を行うことで、文章を書くことへの抵抗が減り、上達した児童が複数見られた。読み聞かせを行うたびに話の聞き方や反応がよくなっている。タブレットとプロジェクターを活用し、視覚的にどこに書くかを示すことで、自分から課題に取り組む児童が増えた。ただ、話の聞き方にも個人差があり、最後まで聞くことができない児童があるので、今後も取り組んでいく必要がある。</p>
算数	<p>①10までの数の合成分解や加減法の計算について、指やブロックを用いないとできない児童がいる。文章問題の意味を的確にとらえて、正しく立式することが難しい児童もいる。</p> <p>②10までの数の合成分解を繰り返し練習する。加減法の計算は、計算カードや算数プリントを活用して反復練習する。文章題を解く際に、演算決定の根拠について丁寧に話し合わせ、指導するようにする。</p> <p>③図、式、言葉等の様々な表現方法を指導し、それらを用いて問題場面を正しく表すことができるようにする。家庭学習を活用する。</p>
検 証	<p>10までの合成分解をすることで計算に慣れた児童が増えた。計算カードを活用し、最初は教師の提示で行い、今は、個人のカードで答えることができる。時間を測ることで、意欲的に活動する児童が多かった。図や式、言葉を活用し、問題作りを行うことで、文章問題の意味理解ができてきた。引き続き、個人差へ対応し、問題に慣れさせ、正しい理解と自分たちで問題作りができるようにしていく。</p>
生活	<p>①他学年や教職員と関わる機会をもつことや継続して植物を育てることによって、興味関心をもって活動し、身近な人と関わることができた。活動する中で気付いたことや感じたことを表現することには、個人差がある。</p> <p>②身近な自然や人との関わりを更に充実させる。生活科カードを活用して、気付いたことや感じたことを絵や文で表現できるようにする。</p> <p>③生活科カードを掲示し、活動の振り返りができるようにする。学年での活動を通してクラス間の交流を深める。</p>
検 証	<p>あさがおの観察や秋探しなどの季節の植物や動物を発見し、生活科カードにまとめるなど、見付けたことをカードにまとめることができた。また、掲示をすることで他の児童の考え方や見方に触れることができた。あさがおの観察では、種から枯れて種ができるまでの観察をすることで、生長に気付くことができた。2年生とのミニこどもまつりもあり、学年のみならず、他学年とも関わることもできた。</p>
音楽	<p>①楽しく音楽活動に取り組んでいる児童が多い。しかし、大きな声ときれいな声を区別し、正しいリズムを感じながら歌うことが課題である。鍵盤ハーモニカは指使いを意識しながら、楽しんで学習に取り組んでいるが、タンギングが習得できていない児童がいる。</p> <p>②歌う活動では、班や号車ごとなど歌う側と聴く側に分かれる活動を取り入れる。鍵盤ハーモニカでは、タンギングを意識して行えるように、その都度適切な指導を行っていく。</p> <p>③楽しんで演奏できるように、鍵盤ハーモニカだけでなくタンバリンなど、色々な楽器を体験させる。リズム遊びや身体を動かしながら音楽を表現する活動を常時活動として行う。</p>
検 証	<p>楽しく音楽活動に取り組みながらも、他の人の歌声を聞いて考える場面を設けた結果、大きな声ときれいな声の違いに気付いた児童も見られた。楽器の演奏では、色々な楽器を進んで行き、音楽表現をすることができた。3学期は全校の前での発表の機会を生かし鍵盤ハーモニカを含めた合奏に取り組み、さらに技能の定着をはかる。</p>
図工	<p>①意欲的に創作活動に取り組む児童が多い。しかし、はさみ・のり・クレパス・絵の具などの扱い方にまだ慣れていないため、使いこなすことができていない児童がいる。技能に関しては個人差が大きい。</p> <p>②全体で道具の正しい使い方を確認し、作業の手順も掲示物を作成して分かりやすく説明する。それぞれの児童の作品のよさを褒めて自信をもたせながら段階的に繰り返し指導していく。</p> <p>③図工の時間に取り組んだ絵を掲示し、自分や友達の作品のよい所を見付け合い、発想を広げていかれるようにする。図工で様々な道具を使う場面を設け、他教科でも道具を活用する場面を取り入れていく。</p>
検 証	<p>道具の使い方や作業手順を細かく指導し、丁寧にに取り組むことができた。展覧会もあり、同学年や他の学年の作品を観ることで、よさを感じ、創作意欲を高めることができた。また、製作段階においても、作品に対するよさを認めることで自信をもって取り組む児童が増えた。生活科など他教科と関連させたことが技能を定着や思いをもった作品作りができた。</p>
体育	<p>①意欲的に取り組み、運動が好きな児童が多い。運動会の表現では、音楽に合わせて踊ることの楽しさを味わうことができた。技能面では、個人差が大きく、体の使い方がまだわかっていない児童が多い。</p> <p>②運動遊びの中にいろいろな体の動きを取り入れていく。また、運動の特性に合わせて、適切な体の使い方ができるように指導する。</p> <p>③学習カードを活用してそれぞれの児童が自分のめあてをもてるようにし、休み時間の遊びで意欲的に体を動かして、運動に親しむことができるようにする。</p>
検 証	<p>運動の特性に合わせた準備運動や体づくり運動などを通して、様々な動きに取り組めるようにした。担任も一緒に行い、児童も意欲的に活動することができていた。大縄などスモールステップで指導した。個人差に対応すべくこれからも指導や場の設定を工夫する。また、ゲーム運動の際に友達と仲良くすること、勝ち負けにこだわりすぎないことを指導していく。</p>

